

平成30年度第6回精華町社会教育委員会 会議録

■日時

平成31年2月5日（火）午後3時から5時まで

■場所

精華町役場5階 502会議室

■出席委員

- ・清水 真理子 ・田中 智美 ・上村 卓三 ・白畑 丈子 ・高鍋 房美
 - ・吉川 博文 ・尾崎 麻由美 ・谷 譲二 ・村上 栄 ・網野 俊賢
- （欠席：堀内委員、瓦委員）

■出席事務局職員

- ・教育長：川村 智
- ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

■傍聴者

なし

■内容

【会議】

1 開会

吉川委員長 あいさつ

- 昨年が古希になったが、時間が経つのが非常に速い。最近お正月を迎えたと思ったら、もう1月経ち2月5日である。今回第6回は30年度最後の委員会である。社会教育の重点などの議案があり、様々な意見をいただきたい。

川村教育長 あいさつ

- 今年度最後の社会教育委員会である。あっという間に2月で、昨日立春、おとついは節分だった。ロシアには「光の春」という言葉があるそうで、窓辺はあたたかいが外はまだ寒い季節である。
- この間の取組として1月は朝のあいさつ運動を行った。14日には成人式があり、500人の対象で400人と8割出席であり、実行委員10名の立案運営司会進行により行われた。本日はこの間の研修会や講座の報告や合同研修会や社会教育の重点の審議などをいただく。

2 報告

(1) 平成30年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

- 1月18日（金）午後2時～4時30分、木津川市加茂文化センター。

- 第3分科会で「精華中学校コミュニティスクールに見る地域と学校の協働活動について」と題して、課題提起を精華町が行い、村上委員が担当。

村上委員

- 概要報告。参加者30人程。用意したスライドを紹介しながら発表した。最後に、社会教育委員として何ができるか、自分の思いとともにまとめた。
- 質問が10人ぐらいからあり、ほとんどはコミュニティスクールの中身についてだった。子どもの反応や、生徒指導面での劇的な改善の原因などを聞かれた。日常的に地域の方が校内にいて、子どもたちが意識することから、年々改善されていったのではないかと答えた。
- 町内の拡大についても聞かれた。難しい問題である。強調したのは、事務局に非常勤とはいえ常勤的に調整を担う職員がいることが大きい。人材の発掘と、予算措置が課題と考える。

吉川委員長

- 予算措置について、府の地域力再生プロジェクト支援事業交付金は申請しているか？

村上委員

- 申請している。持ち出しが3分の1。他に、作成するカレンダーの広告収入、受講料シニア会員年7千円、子どもが年5千円である。総予算300万円で、事務局費は国3分の2、町3分の1の補助金である。
- 受講者は100人規模に落ち着いてきて適正規模だと思う。

上村委員

- 生徒さんが変わってきた。会ったときに笑顔であいさつしてくれる。

村上委員

- 他も各市町で地域学校協働本部やまなび体験教室に取り組んでいる。どこでもコーディネーターがカギだと思う。

田中委員

- 3年生の母子交流事業で学校に行っているが、その時の子どもたちの顔が変わってきた。いかにこれまで生きて来られたかをすごく考えている。コミュニティスクールは大変成功したと思う。今はあいさつもしっかりしてくれる。立ち上げに関わったみなさんに敬意を表する。

吉川委員長

- 出だしが母校に何とかしたいという思いを持っておられた。
- そのほか参加されていた方から一言ずつお願いしたい。

上村委員

- パワーポイントでわかりやすく説明いただいた。みなさん興味深い思いで聞いていただいた。

白畑委員

- 地域の人の目があり、落ち着いてきた。
- 新校舎になり、シニアスクールで今は多目的室が使えることにも感心されていた。

谷委員

- 一番の関心は携わる人について、すごい人が関わっているということ言われていた。次にお金の捻出について、関心が高かった。

尾崎委員

- 立ち上げたときの力がすごい、またそれを維持できた地域の力がすごいと言われた。また町内への拡大の予定を聞かれたが、精華中学校と同じようには地域も違い難しい、試行錯誤しているとの話をした。

吉川委員長

- 第2分科会に参加した。京田辺市から、電気会社に勤務されている50代の社会教育委員が報告された。PTA会長や青少年健全育成協議会の会長を引き受けたこともあり、社会教育委員となったとのこと。
- 「成長する社会教育委員を目指して」とのタイトルでの発表。例えば、懇親会として昼食会を行ったり、研修会や視察に行ったり、グループ討議として5名ずつで話しいろいろな意見を出し合ったり、研修会での報告をしっかり行ったりして、意識が変わってきたということであった。
- グループ討議では、社会教育委員の仕事として、答申をつくることや、広報を広げること、社会教育委員の団体内での引継ぎなどの話があった。社会教育委員として学んでいくことが大切だということが全体的にあった。

(2) 平成30年度第3回子育てサポータースキルアップ講座について

- 1月24日(木)午後1時～4時30分、田辺総合庁舎保健所棟講堂。

高鍋副委員長

- 久御山町の訪問型家庭教育支援についての話があった。久御山中学校を中心に、中学校に行く3小学校、こども園が連携し、スクールソーシャルワーカーが活動されている。
- そのあとのラウンドテーブルで、4人中2人が中学生のお子さんがいる方で、今は連絡簿がなくて、誰と同じクラスかわからないとの話を聞いた。お知らせが一斉送信で、他の方の状況がわからない。つながりが大切と言われる中で難しい。
- 最後の森川先生の話で、昔はおせっかいが嫌で都会に出たりしたが、今は今のおせっかいを見直していかないといけないとの話も印象的だった。

(3) 平成30年度京田辺市社会教育委員研修会について

- 1月30日(水)午後3時～4時30分、田辺中央公民館。

高鍋副委員長

- 「現代の若者の特徴と育成すべき資質・能力」と題して、同支社大学の先生から話があった。
- 現代の若者は真面目だが、怒られた経験がない、競争心がない、言われたことしかしない、社会人としてのモラルが低い、集団の中ではおとなしいと言う。自信がないという子が多いとの話で、褒められた経験も少ないのではないか。昔は小さなことでも褒められた。それで自分の自信につながった。
- ほかに、ビッグデータで消える仕事の話があった。本を1冊読むのは大変だが、今は機械に入っているので、病気になった時にその人のデータがあれば、その人にあった対応がすぐにわかるようになり、手術も機械でできれば病院に行かなくなるようになるかもしれないとの話だった。ただし、ものごとをつくる仕事は無くならないとの話は印象的だった。

- 沖田先生は、初めは中学校の先生で、中高一貫学校準備室、洛北高校、府教育局を歴任され、昨年度までは山城教育局長であり、今年度から同志社大学で勤務されている。いろいろな視点から若者を見て来られた方である。

4. 議事

(1) 精華町教育委員・社会教育委員合同研修会について

- 2月25日(月)午後4時30分～5時30分、精華町立図書館で行う予定。

【説明趣旨】

- 前回の社会教育委員会で話をしていただき、テーマは「社会総がかりで子どもをはぐくむ」となった。委員会と社会教育委員とが意見交換を行い一緒に考えていただくため、合同研修会として行う。
- 学校や子どもに係る取り組みを社会教育委員より代表か数人でお話いただき、その上で意見交換をと考えているが、ご意見いただきたい。

吉川委員長

- 昨年度はお互いの委員の仕事を報告し合ったが、今年は具体的なテーマでということで、学校と地域の連携について話をすることになった。
- 細かい詰めをして、具体的な資料を準備したい。これは話をした方がいいなどを出していただきたい。

上村委員

- 家族のきずなの作文発表会を開催した。8年前から実施し、今は400名ぐらい集まっていた。今では京都府知事賞をお渡しするなど、様々な方に後援いただいている。

田中委員

- 先日の研修会で、生きる力を子どもたちにつけていけるかというテーマと、人権の男女共同参画、平等という話があった。社会教育委員として物事を考え、子どもたちのことを考えていきたい。家族のきずなの話の中でも、いつも「人権」がテーマのひとつとなっている。テーマにしてはどうか。

清水委員

- 「社会総がかりで子どもをはぐくむ」というテーマであれば「食育」を入れたい。食生活改善委員が社会教育委員に3人おり、食によって人間関係まで変わっていくと考えている。
- 先日の山城北保健所での研修会で、精華中学校で行っている食育の田植えや調理実習について報告を行った、地域、学校、行政がトライアングルで取り組んでいることを発表して、精華町はすばらしいと関心を持ってもらった。

吉川委員長

- 作成する資料に「食育」を入れておいてはどうか。メインテーマにすると「食育」だけでも話が1時間も2時間広がるので難しい。

網野委員

- 教育委員と社会教育委員が合同で意見交換を行う貴重な機会である。しかし、テーマは大変広いので、1時間だと色々意見が出て、それだけで終わってしまう。この町の教育に携わる委員として、継続的に話すことは貴重な機会であり、問題意識を高める機会になればと思う。
- 各自がこのテーマに関してどう思うということを出してみてもどうか。一回

だけに終わらず、継続的な議論につなげれば価値がある。

- また「子どもをはぐくむ」ということだが、社会教育の幅は広い。今後は子どもだけでなく成人、お年寄りもと考えていけば。しかし下手をすると議論が分散して終わる可能性もある。次につなげていく機会になればと思う。

吉川委員長

- 意見を出すことで、次につなげたい。
- 来年度、それぞれ5～10分間で、委員のかかわる地域や団体の課題などを報告する機会をつくりたいと考えている。
- しかし今回は時間も短いので、「食育」も「人権」もそれぞれ幅広く、話をすることが難しいのではないかと。今地域や家庭の教育力が落ちており、その中で地域と学校の協働であり、話は広がるが、資料を作成してのぞみたいと思う。
- あとは委員長と副委員長が事務局と話をし、まとめていきたい。

(2) 平成31年度精華町社会教育指導の重点(案)について

【説明趣旨】

- 昨年度分を新たに教育長による確認があり、全体的に見出しを付けたり、主語を入れたり表現を変更したり、文章の整理を行った。大きな項目の変更はない。
- 具体的には、例えば「はじめに」では、「国際化」が「グローバル化」と変更したり、「少子高齢化」の後に「など」を付け加えたりした。
- なお、「せいか学びと育ち」プランはソフト事業を列記していたが、指導の重点のみとすることとして無くした。
- 本日お配りしてすぐは難しいとは思いますが、ご意見をいただきたい。今日難しければ2月20日までをお願いしたい。

吉川委員長

- 事務局にも伝えていたが、本来は30年度の段階で一回もらって、社会教育委員として意見を付けてから、教育委員会に出すという形としたい。今回は既に教育長が目を通したとのことで、時間の関係上これで確認をする。
- 「せいか学びと育ち」プランは無くなるとのことだが、教育大綱はそのままか。また大きな項目はそれに沿っているのか。

事務局

- 教育大綱はもちろんそのまま、大きな項目は従来通り沿っている。
- 今回教育長が重なっている言葉などを整理し、よりスマートに効果的になるように見直しを行った。

吉川委員長

- 社会教育指導の重点はどこに配布しているのか。

事務局

- 教育要覧に載せ配布している。ホームページにも掲載している。
- 議会や関係する機関・団体に配布している。学校にも配布し、校長会でも説明している。

(3) 平成31年度社会教育関連事業について

【説明趣旨】

- 資料に基づいて、来年度の社会教育事業の開催日程の確認を行った。

- 特に6月14日はむくのきセンターで平成30年度山城地方社会教育委員連絡協議会総会があり、地元での開催となる。
- 来年度2台の町バスが更新時期となり、マイクロバスは廃止となる。そのため場合によっては、町バスでなく電車や別の貸し切りバスやジャンボタクシー等での移動となる可能性がある。ただし、排ガス規制で行けなかった大阪などへも行けるようになる。

(4) 公共施設使用料等の改定について

【説明趣旨】

- 12月20日社会教育委員会で説明させていただいたが、12月14日からパブリックコメントを実施した。期間内に町施設全体で、50数件の意見をいただいた。
- 内容は主管の財政課から報告があるが、ご意見としては、値上げの反対、町外町内の値段の差が無くし施設の有効利用を行う（ただし町内の方は予約開始が早くする）、健康長寿の取り組みについては公金を使ってでも取り組んでいくべきなどの意見があった。
- 1月22日に教育委員会が開催され、今日のような内容を報告した。教育委員会では、必要な修繕はすべきでそれをした上で値上げを行うべき、使われる方が気持ちよく使ってもらえるようにすべき、近隣の施設の利用料の整合性が取れるように足並みそろえるべき、そしていかに多くの方に利用してもらえるようにかが大事だとの意見があった。
- 本日も社会教育委員会でご意見をいただきたい。

村上委員

- 中央体育連合会をむくのきセンターで行う場合も値段はどうなるのか。町外で申請されていれば町内と同じく半額となる。ただし町内は2か月前、町外は1か月までである。ただし学校関係は教育委員会として配慮する。

田中委員

- サークルの料金について、むくのきセンターの利用料が値上がりし、かしのき苑に流れたことがあった。町外町内は同じなら予約開始時期に差を設けるなどしてもらいたい。

網野委員

- コミュニティが活性化すると、会合の場所が必要となり、場所への需要が増える。またシーズン性もある。施設に対するマーケットはどうなっているのか、その中で公共施設に求められるものがどうなっているのか、老朽化したものをどうするのか、長期的な視点で考えられる中で、考えていることはあるのか。町スペースの中の問題を考えなければならない。

事務局

- 現在、長寿命化計画を策定しており、今の施設を有効活用し長寿命化して延命化し使っていくことを考えている。利用料についても考えていく。
- 今後手の加えるところをその計画に基づいて予算要望しながら、長く使ってもらえるように考えている。そういった経費も含めて長寿命化計画を対応しながら利用料も考えていこうとしている。

網野委員

- アメリカで同じような規模の町に住んでいた。そこで急に人口を増えたときに、施設が足りず町全体で考えて、企業や民間にもスペースを借りたことがあったため話をした。広く考えてはどうか。

事務局

- 町外利用に関してはそのような考え方が少しある。大型施設は町内では多く作れない。修理で閉鎖のときに、今まで使っていた方が町外で利用される。同じような料金で広域で利用できればお互いに助かる。まだ少ないが、これが広がればと考えている。

吉川委員長

- 学校の体育館はどうか？

事務局

- 学校で授業等で使う時間以外は、「学校開放」として体育協会で管理している。今回、一緒に利用料を見直している。

吉川委員長

- 違う視点となるが、利便性の確保という意味で駐車場の充実も必要ではないか。
- また、グループ内に、町外、町内の所属の方が混在している場合の規定は？

事務局

- 今は団体の規定として、町内が3分の2だと町内という規定がある。改定後はこれに関わらず同一料金となる。
- みなさんが使いやすいように利便性をあげるということと、町内町外にかかわらず広く使っていただくということで、みなさんから意見をお聞きした。

(5) その他

- 相楽「少年の主張」大会のご案内
- まちづくり基本構想策定委員会の進捗状況の報告

◎閉会のあいさつ

高鍋副委員長

- 年末に平成30年を振り返る番組があった。アキハバラ事件で「誰かが止めてくれたら良かった」との言葉が印象的だった。また今の小学生の父親からの暴力事件のこともあり、人のつながりがあれば救えた命がもっとあると身を引き締めた。

5 閉会